



XTEAM
ELECTRIC MOBILITY



CPX
EXPLORER

取扱説明書

Ver.03

2025年10月発行

お客様へ：

VMOTO電動バイクをお選びいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書を必ずお読みになり、安全で快適なドライブをお楽しみください。

はじめに

取扱説明書には、印刷時点までの最新の情報が含まれています。

VMOTOは取扱説明書の内容を、予告なく改訂変更する権利を有します。

取扱説明書のいかなる部分もVMOTOの書面による同意なしに、意図的に複製または複写することはできません。

取扱説明書に記載されている内容は、仕様変更等によりお客様の車両の仕様と異なる場合があります。

取扱説明書は電動モーターサイクルの一部として、車両を譲渡する際には車両と一緒に新しい所有者に引き渡す必要があります。

第一章 安全運転について

ご利用上の注意事項	5
安全上の注意事項	10
運転時の注意事項	12
付属品と改装	15
積載能力	16

第二章 運用ガイドライン

車両ボディ	17
メーターと表示灯	20
スイッチの概要	26
スタート手順	29

リモコンキー	33
バッテリーの取付け	35
バッテリーの充電	37
ブレーキの使用方法	45

第三章 メンテナンスと修理

メンテナンスの基本知識	47
メンテナンス一覧表	54
主要部品の操作・締付トルク	57

第四章 トラブルシューティング

スピードメーター警告コード	62
---------------	-------	----

タイヤの修理	65
バッテリーについて	67

第五章 関連情報

車両清掃	69
車両保管	73
環境保護について	74

第六章 技術的パラメーター

技術的パラメーター	76
メンテナンススケジュール、点検記録簿	78
保証書	巻末

第一章 安全運転について

-01-

ご利用上の注意事項

あなたと周囲の方の安全は非常に重要です。法律に則った運転を行ってください。

安全に運転していただくために、運転前の点検、定期的な整備、ヘルメットなどの安全装備着用をお願いします。

取扱説明書では、安全で快適な走行のために、車両の正しい使用方法、安全な運転方法、簡単な点検方法などを主に紹介しています。

車両の使用や運転に慣れた方でも、取扱説明書をよくお読みください。

運転免許を所持していない人に電動バイクを貸さないでください。

電動バイクの特性として高負荷での連続走行、又は、最高速付近での連続走行を続けると電子機器を保護する制御機能が働き、動力を停止して走行できない場合があります。

安全な場所に停車してバッテリーコネクタを抜き、しばらく待ってから再始動してください。

第一章 安全運転について

電動バイクは車種によって特殊な形状や使用方法があるため、使用する前に必ず本説明書をお読みください。運転免許証を所持していない方にお貸しすることは、無用なケガをさせる恐れがありますのでおやめください。取扱説明書、保証書をご確認ください。

- ① 電動バイクの正しい使い方
- ② オーバーホールとメンテナンス
- ③ 電動バイク保証書の記入とサイン




以下の項目は安全運転のために非常に重要ですので、遵守してください。

- ① この取扱説明書をよくお読みください
- ② 本書に記載されている推奨手順を遵守してください
- ③ 安全に関する表示を理解し、遵守してください。

第一章 安全運転について

安全標識

以下の標識は「運転者または他人に危害を及ぼすおそれがある」こと、及びその回避方法を示しています。大変重要な情報です。よくお読みください。

-  **危険**：この表示を無視して誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う内容を示しています。
-  **警告**：この表示を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
-  **注意**：この表示を守らないと、傷害を負う可能性があります。

その他の標識

注：電動バイクを保護するために守っていただきたい事項です。

第一章 安全運転について

安全に使用するための注意事項:

- ❶ 16歳未満の者が電動バイクを公道で運転することは固く禁じられています。
- ❷ 走行前にヘッドライト、ホイール、ブレーキ、リフレクター等に異常がないか確認してください。異常がないことを確認後に走行してください。
- ❸ 電動モーターサイクルの規定に反した部品を取付けたり、不適合なバッテリーや充電器を使用したりすることは禁止されています。
- ❹ バッテリー容量や電圧の変更、車両の最高速度の向上など、本来の仕様と異なる車両改造は禁止されています。
- ❺ 運転中に電話をかけたり受けたりしないでください。ヘッドホンをつけたり、音楽を聴いたりしないでください。指定された車線を走行してください。赤信号を無視したり、逆走したり、車線を横切ったりしないでください。走行中にバイクを牽引したり、よじ登ったりしないでください。
- ❻ 車両を良好な状態に保つため、車両の整備と点検を怠らないこと。
- ❼ 飲酒運転、スピード違反、他の車とのペース配分を間違えないこと。
- ❽ 車両をコントロールできず、車両の性能に精通していない人に車両を貸すことは厳禁です。
- ❾ 車両は、法令に従って人や物品を運ぶために使用することができます。過積載は絶対にしないでください。ハンドルに物を掛けしないでください。ペダルの上に物を載せないでください。

第一章 安全運転について

- ⑩ 運転者は安全基準に適合したヘルメットを着用しなければならない。また、天候や走行状況に応じて、安全性と認知度が高く、走行に便利な服装を着用しなければならない。
- ⑪ 雨の日や雪の日は制動距離が長くなり、サイドスリップを起こしやすくなります。スピードを落として走行してください。暴風雨などの悪天候時は、できるだけ外出を控えてください。
- ⑫ 建物のホール、階段、避難口、通路、非常口などに車両を停車させない、消火用通路を占拠しないこと。車両は、周囲に可燃物、火源、電熱器具、ガス器具のない場所に停車させること。
- ⑬ 充電中は可燃物に近づけないこと。長時間の充電は控えてください。
- ⑭ バッテリーは、取扱説明書に記載された方法に従って正しく使用し、保守すること。古くなった廃バッテリーは勝手に解体せず、専門業者で回収すること。
- ⑮ 充電器はバッテリー取扱説明書に記載された方法に従って正しく使用し、メンテナンスを行ってください。使用する前に充電器の注意事項を必ずお読みください。充電器を交換する場合は、バッテリーモデルと一致したものをご利用ください。
- ⑯ 運転前に、以下の点を確認してください：
電源ラインや照明回路などの状態は正常か、前後ブレーキは正常に作動するか、ハンドルバーや前後の車輪がしっかりと固定されているか、反射板が破損または汚れたりしてないか、タイヤの空気圧は正常か、などを確認してください。

第一章 安全運転について

-02-

安全上の注意事項

安全上の注意事項

- ❶ 走行の前は、モーターのロックが解除されていることを確認し、車両や周囲状況を確認してください。
- ❷ 電源を入れて、スイッチ、ライト、ホーン、ブレーキ、タイヤなどの安全項目をチェックします。
- ❸ センタースタンドまたはサイドスタンドを収納し、シートに座ってスロットルをゆっくりと回します。
- ❹ 運転者は運転中、両手でハンドルを握り、両足をステップに乗せてください。
- ❺ ハンドルを激しく操作したり片手運転はしないでください。ハンドルをしっかり握り安全運転に努めてください。
- ❻ エンジン音がしないため、周囲や他の車両、歩行者に常に注意を払ってください。
- ❼ リフレクターや保安部品が壊れていないか、汚れていないかをチェックし、必要に応じて適切に対処してください。

第一章 安全運転について

運転の準備

1. ヘルメット

安全基準を満たし、頭のサイズにフィットする製品をご使用ください

- ① 品質証明書のある製品の採用を推奨します。
- ② ヘルメットは正しく着用し、あごひもをしっかりと締めてください。
- ③ 目を保護するため、視界を妨げない保護マスクやゴーグルをご使用ください。



ヘルメットを正しく使用しないと、事故の際に重傷を負ったり
死亡したりする恐れがあります。

運転者は運転時には必ずヘルメットを着用してください。

2. グローブ

耐摩耗性の高い革手袋。

3. ブーツ

滑りにくく、足首を保護できるもの。

4. 服装

長袖のシャツと長ズボン。

第一章 安全運転について

-03-

運転時の注意事項

運転時の注意事項

- ① リラックスした姿勢を保てば、安心して運転できます。
- ② 運転中（特に急ブレーキやでこぼこ道）に膝がぶつからないよう注意してください。
- ③ 荒れている道路や砂利道を走るときは、スピードを落として充分注意してください。
- ④ 雨の日や雪の日の走行は、路面が濡れているため横滑りを起こしやすくなります。
- ⑤ いつでもブレーキがかけられるようにしておいてください。

ウエット走行時はブレーキの効きが弱くなる場合がありますので、スピードを落として走行してください。

慣らし運転

正しい慣らし運転を行うことで、車両の性能を良好に保つことができます。

慣らし運転のポイント（走行距離：1000km以上／走行期間：3ヶ月以上）：

急発進、急加速、急ブレーキ、急減速は避けて注意して運転してください。

第一章 安全運転について

ブレーキ

以下の項目にご注意ください：

1. フロントブレーキとリアブレーキは同時に使用すること

2. 不必要な緊急ブレーキは避けること

カーブに入る前やカーブを曲がる時はスピードを落としてください

3. 雨天時の濡れた路面や滑りやすい路面での運転には十分ご注意ください

タイヤがスリップしやすく、より長い制動距離を必要とします

4. 連続的なブレーキを避ける

連続でブレーキを使用し続けるとフェード現象が発生し、ブレーキの効きが極度に悪くなります。

薄暗いところを運転するとき（夜間、霧の日など）

薄暗い中での運転は、視界不良による交通事故や転倒の危険性があります。

ヘッドライトを点灯してください。ヘッドライトが点灯しない場合は、車両を降りて前に押してください。

モーター動作中や停止した後は、モーターやその周辺に触れないでください。

第一章 安全運転について



注 意

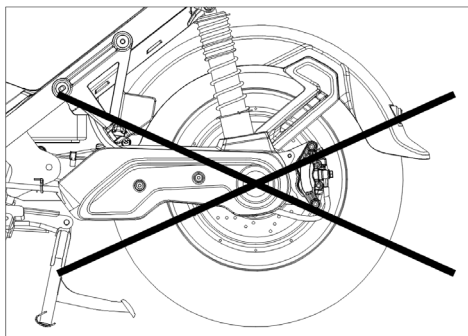
モーターやブレーキの周辺部品は全体が回転します。

しばらく停止している間も高温状態にあります。

触れるとやけどの恐れがあります。

冷却前のモーターの周辺部品や、ブレーキ、その他の高温部品には触れないでください。

高温部品には人や可燃物が接触しないように注意してください。



第一章 安全運転について

-04-

付属品と改装

付属品を取り付ける場合は、安全のためVMOTO純正部品の使用を推奨します。

VMOTO取扱店舗にご相談ください。

車両を改造したり、元の部品の位置を変更したりすることは、安全運転の要件を満たさず、関連する交通管理規則に違反します。

個人的な改造がもたらす品質上の問題や結果は、すべて利用者が負うものとします。

上記のような行為は、車両の安定性、ブレーキ性能、安全性に重大な影響を与えるため、車両を改造したり、純正部品の位置を変更したりしないことを強くお勧めします。



警 告

不適切なアクセサリーの取付けは、事故や重傷、死亡につながる恐れがあります。

付属品を取付ける場合は、VMOTO取扱店にご相談の上、取扱説明書に従ってください。

第一章 安全運転について

-05-

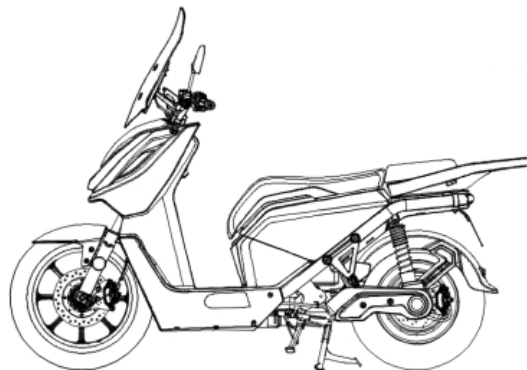
積載能力

CPX EXPLORERの最大荷重は165kg（リアキャリアは5kg）、乗車定員は2名。

過積載は厳禁です。

積載に関するガイドライン：

- ① 過積載はしないでください。
安全な速度で走行してください。
- ② ハンドルバーの周りに物を置かないでください。
- ③ ヘッドライト、テールライト、モーターの周りに荷重をかけないでください。過熱によりライトのカバー等が変形する恐れがあります。

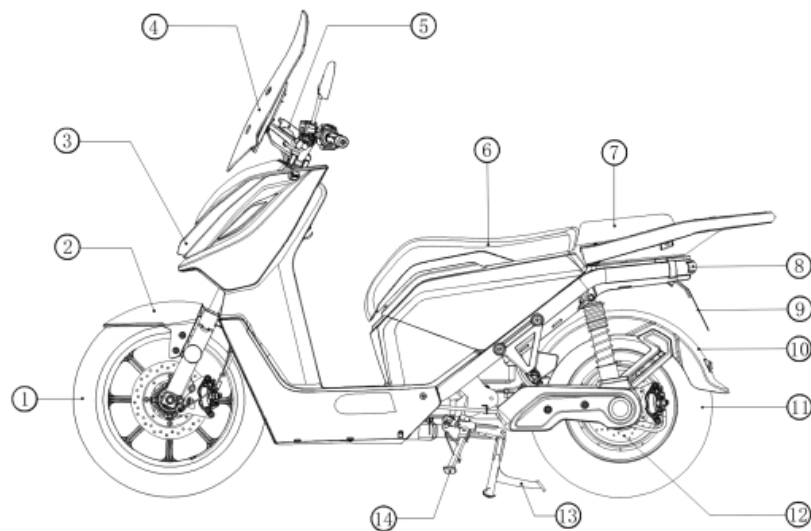


第二章 運用ガイドライン

-01-

車両ボディ

Side View



第二章 運用ガイドライン

① フロントタイヤ

⑥ シート

⑪ リアタイヤ

② フロントフェンダ

⑦ タンデムシート

⑫ モーター

③ ヘッドライト

⑧ テールライト

⑬ メインスタンド

④ ウィンドシールド

⑨ ナンバーブラケット

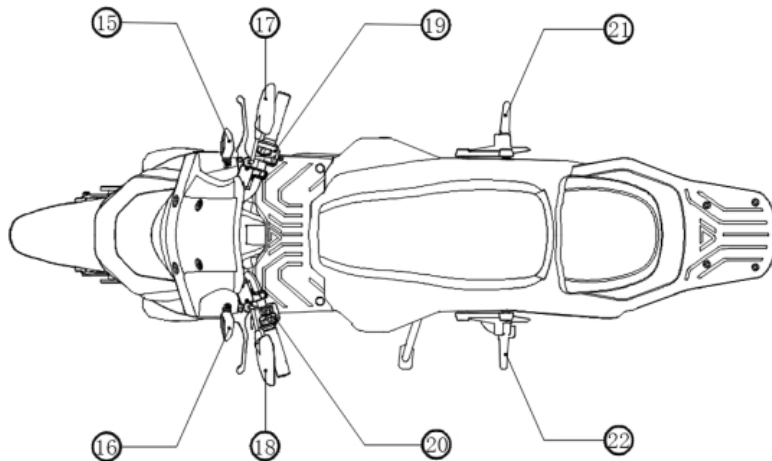
⑭ サイドスタンド

⑤ メーターパネル

⑩ リアフェンダ

第二章 運用ガイドライン

Top View



15 ウィンカー右

16 ウィンカー左

17 バックミラー右

18 バックミラー左

19 スイッチASSY右

20 スイッチASSY左

21 タンデムステップ右

22 タンデムステップ左

第二章 運用ガイドライン

-02-

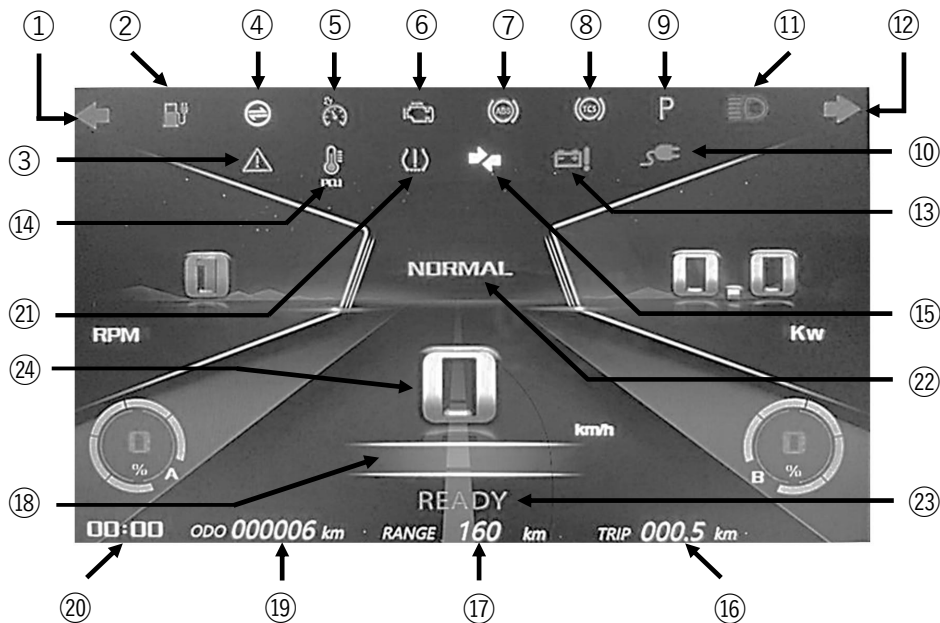
メーターと表示灯

- ① ウィンカー左
- ② 充電状態
- ③ システムエラー警告
- ④ CAN 通信状態
- ⑤ クルーズコントロール
- ⑥ 警告表示
- ⑦ ABS
- ⑧ TCS
- ⑨ パーキング
- ⑩ 充電接続
- ⑪ ハイビーム表示
- ⑫ ウィンカー右
- ⑬ バッテリー電圧
- ⑭ 温度警告
- ⑮ バッテリーリンク
- ⑯ トリップ表示
- ⑰ 走行可能目安
- ⑱ 障害表示
- ⑲ オドメーター
- ⑳ 時間表示 (未対応)
- ㉑ タイヤ空気圧警告 (未対応)
- ㉒ 走行モード表示
- ㉓ READY表示
- ㉔ スピード表示

第二章 運用ガイドライン

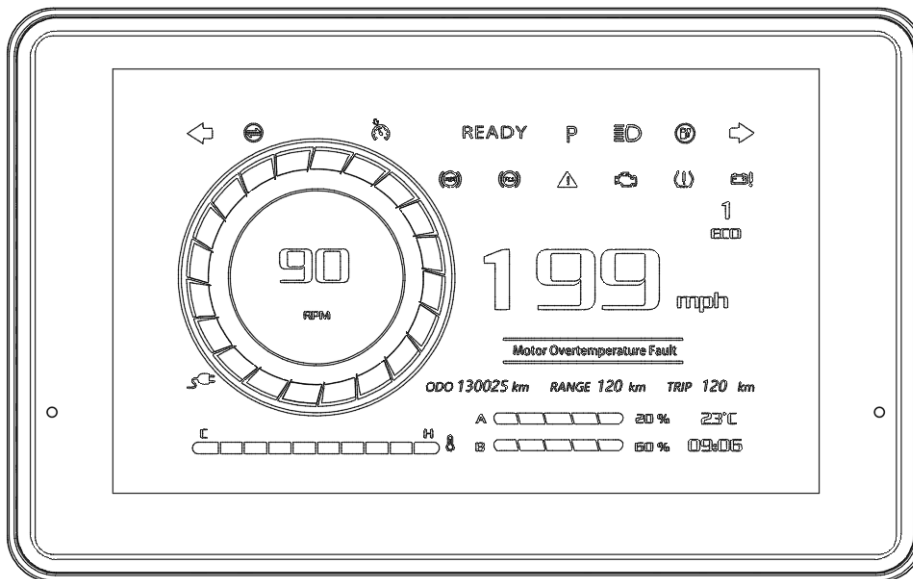
このモデルには3つのメーター表示切り替えが可能です。

Interface 1:



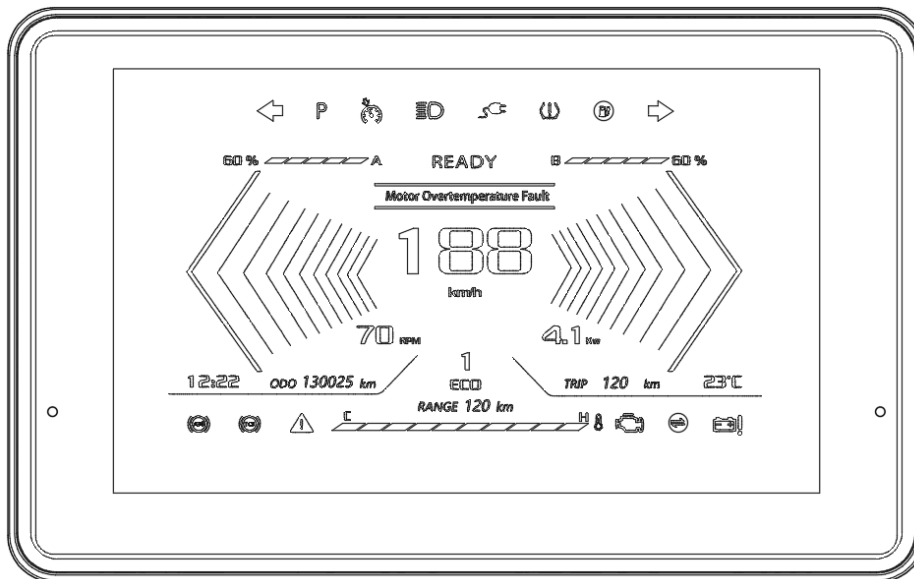
第二章 運用ガイドライン

Interface 2:



第二章 運用ガイドライン

Interface 3:



第二章 運用ガイドライン

調整オプション画面

※日本仕様モデルには、以下の”Tire Pressure Learning”機能は非対応です。



第二章 運用ガイドライン

QRコード案内画面

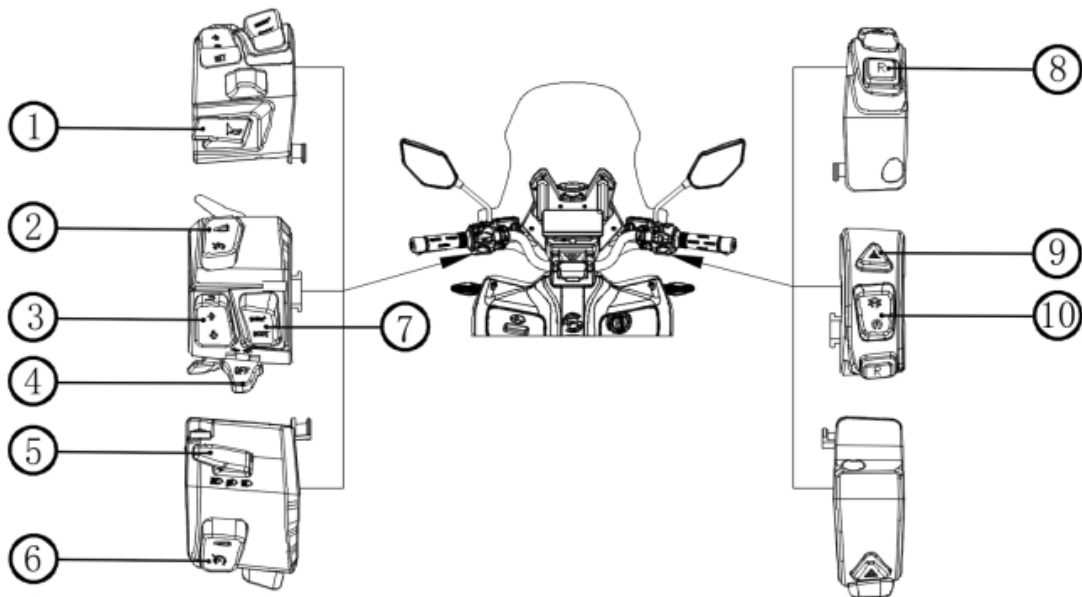
※日本仕様モデルには、以下の”QRコード”機能は非対応です。



第二章 運用ガイドライン

-03-


スイッチの概要





第二章 運用ガイドライン

機能の紹介

- ① ホーンボタン
- ② シートオープンボタン：シートを開くときに長押しして使用します。
- ③ メーター表示変更ボタン：上ボタンを長押しすると、Tripメーターを0kmにリセットできます。
メーターの画面表示を変更するには下ボタンを押し、前のレイヤーに戻るには上ボタンを押します。
調整オプションにアクセスするには、調整オプション画面を表示して下ボタンを長押しします。
メーター画面に戻るには上ボタン長押しします。
- ④ ウインカーボタン：
左にスライドするとウインカー左がオンになり、右にスライドするとウインカー右がオンになります。
- ⑤ ヘッドライトコントロールボタン：

ハイビーム 
スイッチ後方より
人差し指で前に押す

ロービーム 

パッシング 
パッシングするには、
手元側にトグルさせます

- ⑥ クルーズコントロールボタン

第二章 運用ガイドライン

- ⑦ スピードモードボタン：Mode+/Mode-
モード切替: 4種類の走行モードの変更 1,2,3 and 4.

”DYNAMIC”モードは、メーター内の”⑮”バッテリーリンクが表示されている時に使用できます。

下記の状況の場合は、”DYNA”モードを使用することができません。

- バッテリーを1個のみを接続して走行するとき
- バッテリーを2個接続して、それぞれのバッテリー残量にバラつきがあるとき

- ⑧ リバースボタン：

後進する際はリバースボタンを押し続けながら、スロットルをゆっくり回転させます。

- ⑨ ハザードボタン：ハザードランプが点滅、消灯します。

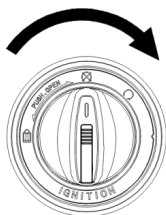
- ⑩ パワーコントロールボタン：走行可能な状態とパーキング状態の切替えができます。

第二章 運用ガイドライン

-04-

スタート手順

① 車両の始動



始動方法1:



ロックシリンダー上面をスライドして、キーをロックシリンダーに差し込み、左図のようにノブを時計回りに回して図の位置にします。

始動方法2:

リモコンキーを使用し、車両検索ボタンを押し続け（詳細はリモコンキーの項を参照）上図のようにノブを時計回りに回して図の位置に合わせます。

- ② 車両を真っ直ぐにして、サイドスタンドを格納します。
- ③ 左側から乗車して、正しい乗車姿勢で安定して座ります。
このときバイクが倒れないように足で地面を支えます。

第二章 運用ガイドライン

- ④ 右側のパワーコントロールボタンを（オン）の位置に切替えます。  左マークが動力待機オフ
- ⑤ ブレーキレバーをゆっくり握ると、"Ready"ランプが点灯します。  左マークが動力待機オン
- ⑥ スロットルをゆっくり回して発進させる。
- ⑦ スロットルで速度を調節する。

スロットルをゆっくり回してスピードを上げ、すばやく元に戻してスピードを下げる。



警 告

Pモード解除した時に、ハンドルに手や物を置いたり、
不用意にスロットルを回転させると、車両が急に前進し事故につながります。
スロットルを操作するときは正しい姿勢でシートにお座りください。

第二章 運用ガイドライン

シートを開ける方法

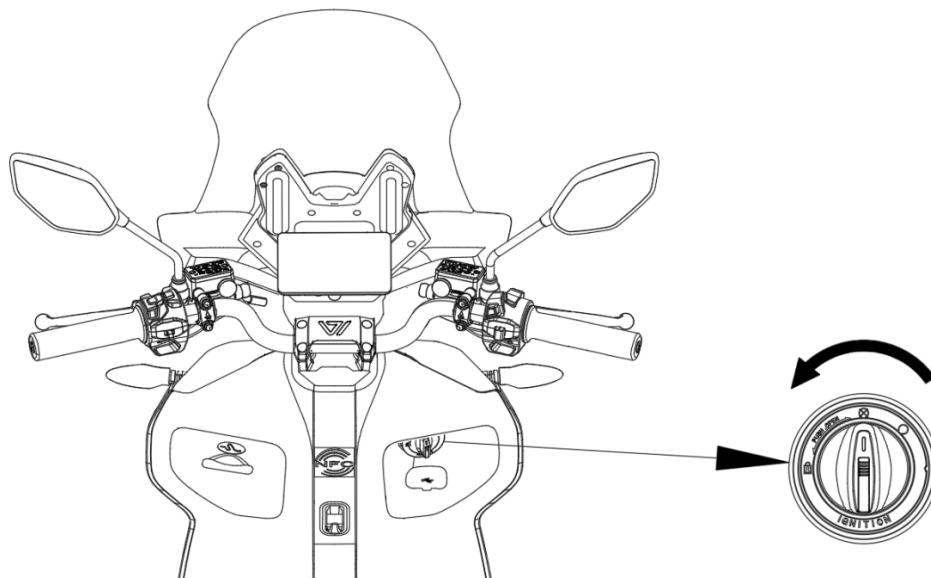
- 1：ロックシリンダーにキーを差し込み、前ページの図のように反時計回りに回すと、シートが開きます。
- 2：リモコンキーを使用し、盗難防止ボタンを押し続けると、シートが開きます。
詳細は「リモコンキー」の項をご参照ください。
- 3：車両の電源が入っている状態でシートオープンボタンを押すと、シートが開きます。
詳しくは、P27「スイッチの概要」の項をご参照ください。

シートを閉める方法

シートを閉めて、シートの後部を押さえてロックします。
シートを軽く持ち上げ、ロックされていることを確認してください。

第二章 運用ガイドライン

シートロック解除

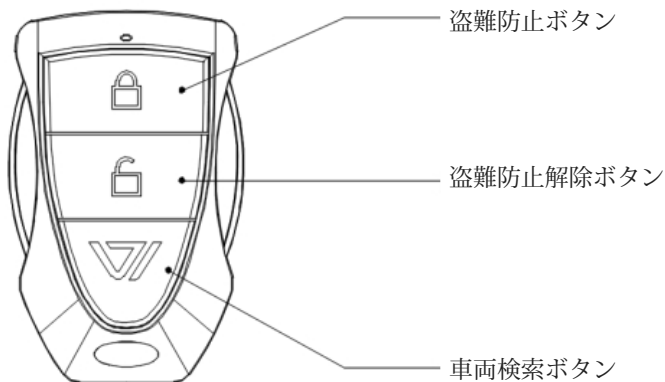


第二章 運用ガイドライン

-05-

リモコンキー

リモコンキーは電動オートバイ用に構成され、シンプルな操作が特徴です。
車両に効果的なセキュリティを提供します。



第二章 運用ガイドライン

盗難防止ボタン

電源オフ状態のとき：短く押すと、盗難防止モードが作動します。

アラーム音が1回鳴り、方向指示器が1回点滅します。

長押しすると、サイレントモードとアラームモードが切り替わります。

サイレントモードでは、車両のアラームは鳴りません。

注：初期電源投入時、車両はアラームモードに初期設定されています。

盗難防止解除ボタン

電源オフ状態のとき：このボタンを短く押すと、盗難防止モードが解除されます。

(アラーム音が1回鳴り、方向指示器が2回点滅します)

このボタンを長押しすると、シートが開きます。

車両検索ボタン

車両検索ボタンを短く押す：アラームが3回鳴り、ウィンカーが3回点滅します。

車両検索ボタンを長押しする：キーレスGO機能が作動します。

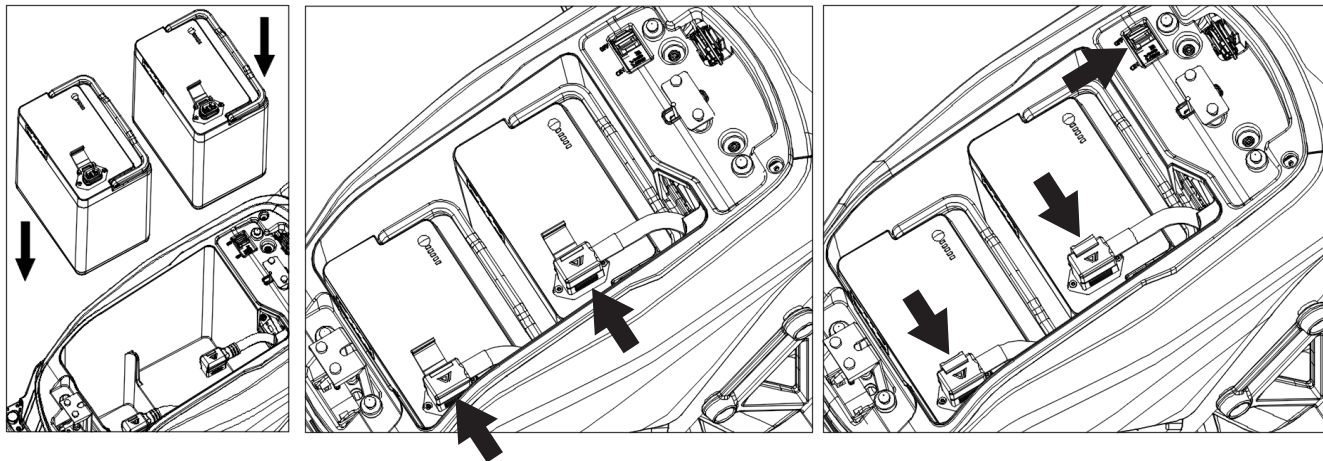
キーレスGO機能とは、キーシリンダーにメカキーを挿入しなくてもロックシリンダーを回転させて始動できる機能です。

第二章 運用ガイドライン

-06-

バッテリーの取付け

バッテリーの取付け



第二章 運用ガイドライン

ステップ 1: シートを開きます (詳細はシートの項 P31を参照)

ステップ 2: ブレーカーのスイッチが [OFF] の位置にあることを確認します

ステップ 3: バッテリーを挿入します

ステップ 4: バッテリーコネクタを接続します

ステップ 5: バッテリーコネクタにロックをかけて、ブレーカーを [ON] の位置に切り替えます

ステップ 6: シートを閉じます



警 告

長期間保管する場合はバッテリーを100%まで充電してください。

15日以上使用しない場合は、バッテリーのコネクタを抜いて

物理的に車体と切り離す必要があります。

車体とバッテリーを別々に保管してください。

第二章 運用ガイドライン

-07-

バッテリーの充電

充電は車両付属の専用充電器をご使用ください。

純正品以外の充電器を使用した場合、バッテリーに不可逆的な損傷を与え、回路やバッテリーの故障につながります。その結果生じた損害はユーザーが負担するものとなります。

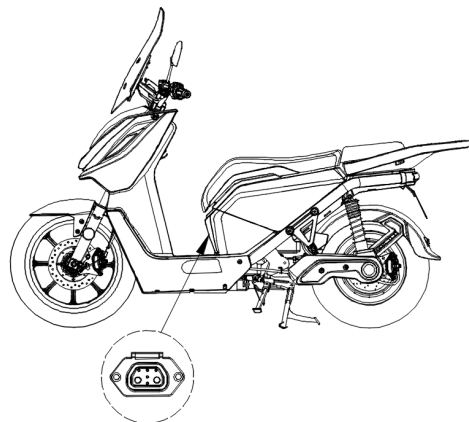
充電方法

車体充電をご利用の際は、図で示した場所に
充電器のコネクタを接続してください。

充電時における禁止事項

次のような場所では充電を行わないでください

- ① 可燃性ガスや引火性物質のある場所
- ② 暖房器具の周辺や直射日光の当たる高温の場所
- ③ 雨や水にさらされやすい場所
- ④ 子供やペットが遊ぶ場所



第二章 運用ガイドライン



警 告

充電は医療用電気機器に影響を与え、重傷または死亡の原因となる可能性があります。
埋込み型心臓ペースメーカーや埋込み型除細動器、その他の医療用電気機器を
使用しているユーザーは、充電によってこれらの機器が影響を受けるのかを
医師や医療用電気機器の製造元と相談する必要があります。

第二章 運用ガイドライン

充電器を使用する際は、以下の事項を遵守してください。

- ① 警告 : ユーザーは取扱説明書の要件に従って充電する必要があります
- ② 遵守 : オリジナルの充電器を使用してください
- ③ 注意 : 充電器が充電できるバッテリーの種類と適用電圧は混用厳禁です
- ④ 充電器は換気の良い環境に行ってください。密閉された空間、炎天下、高温環境下での充電は厳禁です。充電器をシートの上やトランクの中に置いて充電しないでください。
- ⑤ 充電の際は、最初に充電ポートにコネクタを差し込み、最後にコンセント電源に接続します。
- ⑥ 車両を完全に充電した後、最初にコンセント電源を抜いて、充電ポートのコネクタを取外します。緑のランプが点灯したら、早めに電源を抜いてください。満充電時などの充電できない状態で、長時間AC電源に充電器を接続することは禁止されています。
- ⑦ 充電中、インジケータランプに異常がある場合、異臭がする場合、充電器本体が過熱している場合は、直ちに充電を中止し、充電器を修理または交換してください。
- ⑧ 充電器の使用と保管過程において、異物の侵入を避けるように注意してください。特に、充電器の内部ショートを引き起こさないように、水やその他の液体の流入を避けてください。充電器を持ち運ぶ必要がある場合は、衝撃吸収処理を施した後に、バックパックやツールキット等の中に入れてください。
- ⑨ 充電器を個人で分解したり、部品を交換したりしないでください。

第二章 運用ガイドライン

車両の電源が破損した場合、または充電システムに不具合が生じた場合は、VMOTO製品取扱い修理サービス店にて点検を受けてください。

充電は下記の場所で行ってください。

- ① 屋内の平らな場所に安定して停車できる場所
- ② 換気が良く、湿気の少ない場所



警 告

充電中は高電圧になるため感電や火災の恐れがあり、
不適切な操作の場合は重傷を負ったり死亡することもあります。

バッテリーを充電する際は、
専用充電器の取扱説明書に記載されている方法と注意点に従ってください。

第二章 運用ガイドライン

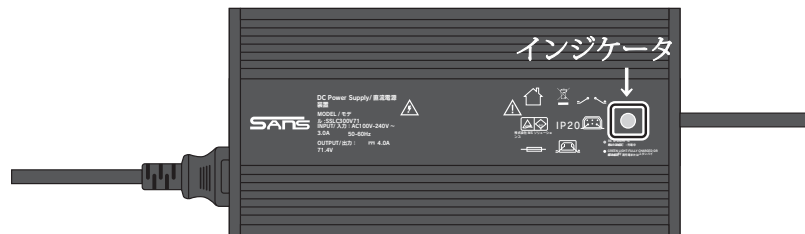
充電器のご利用について

① バッテリーと充電器を接続。

充電器のインジケータが消灯していることを確認して、最後に充電器のプラグをコンセントに挿しこみます。

② 充電を開始したバッテリーが満充電になると、充電器のインジケータが赤→緑になります。

※満充電付近では上記②の動作を1～5分ほど繰り返します。



充電開始
(インジケータ：赤)



充電完了
(インジケータ：緑)



充電開始
(インジケータ：赤)

※1～5分動作を繰り返します。
この間には充電器を抜かないでください。

第二章 運用ガイドライン

充電器インジケータの状態：

緑色点灯 ： フル充電または充電電流が $400 \pm 200\text{mA}$ 未満

緑色点滅 ： バッテリーが接続されていない

赤色点灯 ： 正常充電（充電電流 $800\text{mA} \pm 200\text{mA}$ 以上）

赤色点滅 ： 故障（過電圧、不足電圧、短絡、過電流、過温度、逆接続）

※充電器は 10 時間連続で充電すると一旦停止します。

コンセントからプラグを抜き、冷却後に再度接続して充電を再開してください。

第二章 運用ガイドライン

バッテリー使用上の注意：

- ❶ 不適切な使用はバッテリーの寿命を著しく縮め、お客様に経済的損失をもたらします。
バッテリーの発熱、発火、爆発、さらには人身事故につながるため、以下の注意事項をよくお読みください。
- ❷ バッテリーの分解や破壊、子供の手の届くところに置いたり、充放電ポートに金属物を使うなど短絡接続したりすることは厳禁です。
- ❸ バッテリーを高温多湿の場所に置かないでください。
投げたり、落としたり、転がしたり、押ししたりしないでください。
洗ったり、水に浸したり、直射日光に当てたりしないでください。
バッテリーを硬いもので叩いたり、鋭利なものでひっかいたりしないでください。
目に入った場合はこすらないでください。すぐにきれいな水で目を洗い、医師の診察を受けてください。
- ❹ 充電にはバッテリーに適合した充電器をご使用ください。充電の仕様に合わない充電器を使用すると、過電圧・過電流になりやすく、バッテリーが発熱・焼損するなど危険です。
- ❺ バッテリーが破損して漏出した場合、漏出した物質が不注意で目に入った場合は、こすらないでください。
直ちに清浄な水で洗眼し、医師の診断を受けてください。
- ❻ バッテリーが電力不足の場合は、直ぐにフル充電してください。
電力不足の状態でも2週間以上放置しないでください。
- ❼ 過熱を避けるため、長時間の充電はしないでください（一般的に10時間以内）

第二章 運用ガイドライン



警 告

漏電遮断器と接地付きのソケットを使用しない場合、
感電や火災の原因となります。

加えて、漏電による重傷や死亡の原因になることがあります。

漏電遮断器付きのアースを接続したソケットをご使用ください。

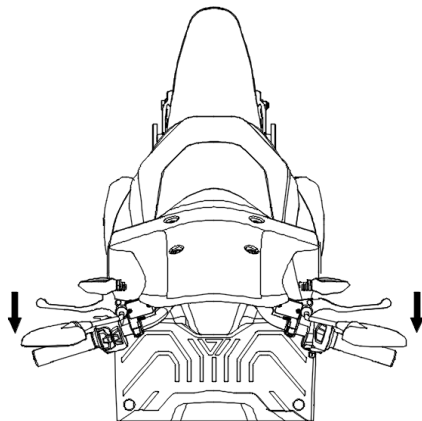
充電器の清掃について

- ① 清掃の際は、雑巾をよく絞ってから拭いてください。
- ② 感電や破損を防ぐため、水洗いや高圧洗車機、洗剤、化学薬品、油脂類などは使用しないでください。

第二章 運用ガイドライン

-08-

ブレーキの使用方法



電動バイクの前輪と後輪にはディスクブレーキが採用されています。
効果的なブレーキ力を発生するためには、フロントとリアのブレーキレバーを同時に使う必要があります。

第二章 運用ガイドライン



警 告

ブレーキ、加速、旋回時には特に注意してください。

十分なブレーキ距離を保つようにゆっくり走行してください。

レール、鉄板、マンホールなどの平滑面を走行する場合は、十分注意してください。

雨天時や整地されていない路面ではブレーキ力が低下します。

このような場合は十分ご注意ください。

第三章 メンテナンスと修理

-01-

メンテナンスの基礎知識

メンテナンスの重要性

車両の安全性と快適なライディングを確保するため、車両の日常的な使用に基づき、メンテナンススケジュールの指示に従って定期的に点検を行ってください。

- ① メンテナンスおよびサービスについては、取扱説明書およびユーザー保証書に記載されているメンテナンス方法および注意点を遵守してください。
- ② 異常箇所が見つかった場合は必ず修理して走行してください



警 告

通常の整備を怠ったり、走行前に故障を修理しなかったりすると、
重大な人身事故や死亡事故につながる恐れがあります。

第三章 メンテナンスと修理

メンテナンス時の安全性

以下の項目は、安全維持の為に留意しなければならない。

- ① 整備は平坦で堅固な場所で行ってください。
- ② モーター周辺やブレーキなどの発熱部は、やけどの恐れがあります。
部品が冷える前には触れないようにしてください。
- ③ 充電器が車両に接続されている場合は、メンテナンスはできません。

日常の点検

快適な走行を確保するため、ユーザーの判断に基づき、法的規定および車両の日常使用に従って実施してください。長距離走行後や洗車後、充電完了後などに点検することをお勧めします。

点検結果は点検整備記録簿に記録してください。

異常な音やフィーリングを感じた場合は、直ちにVMOTO製品取扱店舗にご連絡ください。

第三章 メンテナンスと修理

バッテリー

バッテリーは長期間使用すると徐々に容量が低下します。正常にご使用いただくために、定期的にVMOTO製品取扱店にて点検を行ってください。

事故の緊急処置

次のような場合には、応急処置の後、直ちに医師の診察を受けてください。

① バッテリーに流入する水の処理：

バッテリーに水が入ると内部でショートし、安全上の問題があるため使用禁止とする。

② 高温事故の緊急処置：

直ちに通電を遮断し、粉末消火器または砂で覆い、水（防火水池、水桶）に浸すなどの方法で消火してください。

③ バッテリーを火花、直火、その他の熱源から遠ざけてください。火災につながる可能性があります。

④ バッテリーは、子供の手の届かない場所に置くこと。

⑤ バッテリーを分解したり、組立て直したりしないでください。

⑥ バッテリーに、過度の衝撃を与えないでください。

第三章 メンテナンスと修理



警 告

バッテリーの電解液は可燃性の有機溶剤です。

バッテリーを不適切に使用すると、人がやけどを負ったり、重傷を負ったりする恐れがあります。

充電ポートの清掃

充電ポートが汚れている場合は、圧縮空気（エアブロー）で清掃してください。

充電ポートに他のものを使用しないでください。

第三章 メンテナンスと修理

タイヤ

空気圧の点検

タイヤの空気圧は徐々に低下していきます。

肉眼では空気圧不足がわからないこともあるので、少なくとも1ヶ月に1回はタイヤゲージで空気圧を点検してください。

走行中にタイヤが暖まって空気圧が上がる場合があります。その場合はタイヤが冷えてから点検してください。

冷間時のタイヤ空気圧の基準値：

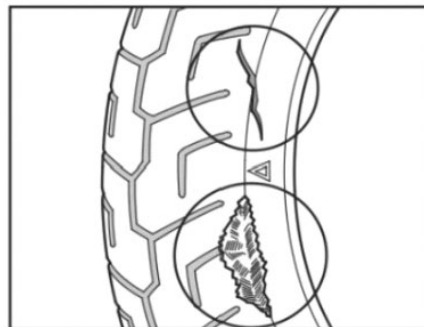
	フロントタイヤ	リアタイヤ
タイヤ空気圧、KPa	175	225

第三章 メンテナンスと修理

ひび割れと損傷の検査

タイヤ全体にひび割れ、損傷、破断がないか、スパイク、石、その他の異物がタイヤの側面やトレッドに刺さっていないかを点検してください。

タイヤの側面が道路の縁石に接触した場合、または穴や突起物を横切った後は、点検してください。

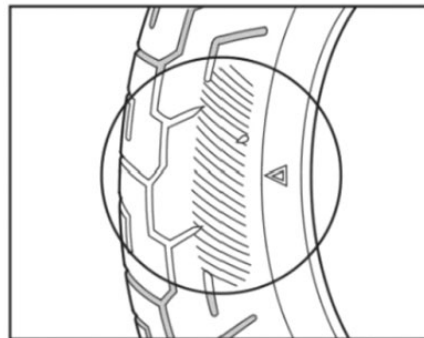


トレッドの深さを確認する

トレッドの摩耗表示マークを確認してください。

トレッドパターンの摩耗が確認できた場合は、直ちにタイヤを交換してください。

タイヤはトレッドパターンの摩耗限界に達したら、安全な運転のため交換しなければならない。



第三章 メンテナンスと修理



警 告

過度に磨耗したタイヤや空気圧が不適切なタイヤを使用すると、転倒などにより重傷を負ったり、死亡したりする恐れがあります。取扱説明書のタイヤ空気圧を守り、規定残量値を超えたタイヤは交換してください。タイヤ交換はVMOTO製品取扱店舗にご相談ください。



警 告

指定外のタイヤを装着した場合、操縦性や安定性に影響を及ぼし、重大な人身事故や死亡事故につながる恐れがあります。タイヤ交換の際は、指定タイヤを装着してください。

第三章 メンテナンスと修理

-02-

メンテナンス一覧表

整備表に記載された期間に従って、車両を点検してください。

以下のメンテナンス表は、頻繁に使用される車両に必要なすべてのメンテナンス項目を規定しています。整備はVMOTOの基準を満たし、経験豊富な専門技術者が行うものとします。安全性を確保するため、取扱店舗での整備をお勧めします。毎回の定期整備終了後、取扱店舗での専門技術者によるロードテストを実施します。

第三章 メンテナンスと修理

メンテナンス リスト	1000km/ 3ヶ月	3000km/ 6ヶ月	6000km/ 12ヶ月	9000km/ 18ヶ月	12000km/ 24ヶ月
ブレーキオイル	○		○		●
タイヤの空気圧と摩耗	○	○	○	○	
ブレーキパットの摩耗		○	○	○	
ブレーキディスクの摩耗			○		
フロントアクスルナットとリヤ ホイールボルトの増締め	○		○		
ロックナット増締め	○		○		
モーターとモーターホルダー ボルトのクランプナット	○		○		
フロントとリアのボルト	○		○		
ステアリングシステムのロックナット	○		○		

第三章 メンテナンスと修理

メンテナンス リスト	1000km/ 3ヶ月	3000km/ 6ヶ月	6000km/ 12ヶ月	9000km/ 18ヶ月	12000km/ 24ヶ月
フロントキャリパーブラケット (ネジロック材)	○		○		●
フロントブレーキディスク (ネジロック材)	○		○		
リアキャリパーブラケット (ネジロック材)	○		○		
リアブレーキディスク (ネジロック材)	○		○		
バッテリー	○	○	○	○	



注：オドメーターの読みと月数のどちらか早い方が優先されます。

走行距離計の数値が高い場合、整備・点検の頻度は高くなります。

第三章 メンテナンスと修理

-03-

主要部品の操作・締付トルク

締付部品のトルク

サービスステーションにて3ヶ月に一度、締付け部品に緩みがないかチェックし、緩みがある場合は適時に締め付けます。

主要締付部品の締付トルク指数：

品名	部品名称	締付トルク N*m
サイドサポート	ナット	25-34
	回転軸	5-15
モーター	スイングアームとの締結部	110-130

第三章 メンテナンスと修理

品名	部品名称	締付トルク N*m
ホイール	前輪車軸	54-64
	後輪	54-64
	フロントブレーキ ディスクボルト	39-44
	リアブレーキ ディスクボルト	39-44
ステアリングステム	ステアリングステムナット	55-65
	ステアリングバーのセルフロックナット	25-34
	ロアブリッジ (フロントサスペンションの固定)	25-34
	ステアリングステム	20-25
	ハンドルバーホルダー	9.8-14
リアサスペンション	フレーム側	49-59
	スイングアーム側	49-59
スイングアーム	リアスイングアームアクスル	49-59

第三章 メンテナンスと修理

品名	部品名称	締付トルク N*m
ブレーキ	右ブレーキレバーボルト	0.5-1.5
	右ブレーキレバーナット	5.0-7.0
	左ブレーキレバーボルト	0.5-1.5
	左ブレーキレバーナット	5.0-7.0
リアキャリア	固定ボルト (フレーム)	29-34
	フランジボルト	29-34

フロントブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの摩耗痕状態を確認する。

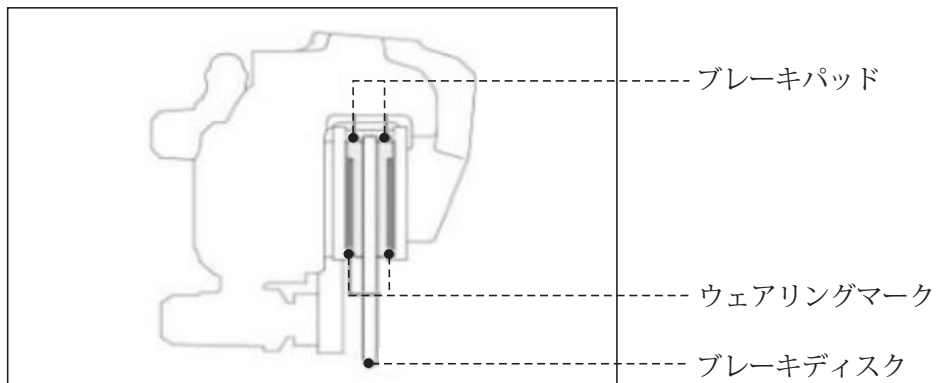
ブレーキパッドがマークまで摩耗している場合は交換が必要です。

ブレーキキャリパーの下部からブレーキパッドを確認してください。

交換が必要な場合は、販売店にご依頼ください。

左右同時に交換してください。

第三章 メンテナンスと修理



ブレーキフルードの交換

緊急時以外のブレーキフルードの補充や交換は行わないでください。ブレーキフルードは密閉容器から採取した新品のみ使用できます。ブレーキフルードを補充した場合は、早めに取り扱店舗に点検を依頼してください。

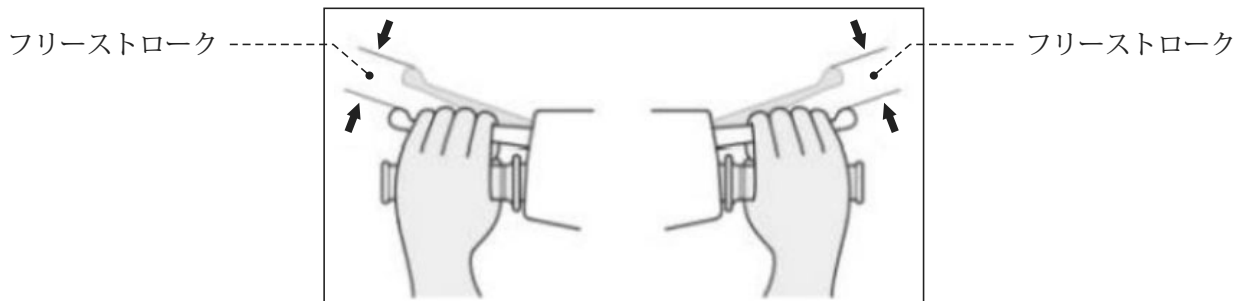
第三章 メンテナンスと修理

注意事項:

- ① ブレーキフルードはプラスチックや塗装面にダメージを与えます。
- ② ブレーキフルードがかかった場合は、すぐに拭き取り、完全に洗浄してください。

ブレーキレバーのストローク点検

抵抗を感じるまでブレーキレバーを握り、レバー手前のフリーストロークが規定範囲内かをメジャー等で確認する（ブレーキレバーのフリーストローク：30～45mm）。



規定範囲を超える場合は調整してください

第四章 トラブルシューティング

-01-

スピードメーターの警告コード

車両に異常が発生すると速度計の故障表示灯領域に、対応する警告コードが表示されます。

特定の障害コードと説明を以下に示します。

障害コード	障害内容
86	GPS 障害
87	ネットワーク障害_GPRS
88	放電時の低温保護
89	充電時の低温保護
90	放電時の過電流保護
91	放電時の高温保護
92	過充電保護

第四章 トラブルシューティング

障害コード	障害内容
93	過電流保護/過電流障害
95	スロットル障害
96	モーター位相損失障害/モーターホールセンサーの故障
97	MOSFET 障害/ドライブ障害
98	過電圧障害/過温度障害/低電圧障害/モーターストール障害
100	モーター過熱障害
101	Bluetooth 障害
103	周辺温度の異常
104	自己点検時の異常
105	放電短絡回路保護
106	充電時の過熱保護
107	バッテリーの低電圧保護
108	バッテリーパック開放回路

第四章 トラブルシューティング

障害コード	障害内容
109	MOS過熱保護/MOS障害
110	温度センサー 障害
111	単セル電圧異常
112	ID 障害/EOLアラーム
113	ハードウェア障害
114	出力電圧が高い
115	出力電圧が低い
116	出力過電流/充電器低温
117	充電器高温
119	ハードウェア障害
120	通信障害

上記のような障害が発生した場合は、
お早めにVMOTO製品取扱店まで修理をご依頼ください。

第四章 トラブルシューティング

-02-

タイヤの修理

タイヤがパンクしたり摩耗した場合は、修理せずに交換してください。一時的、永久的に修理しても性能は新品タイヤには及びません。

一時的または緊急にタイヤを修理する場合は、速度を落として慎重に運転し、VMOTO取扱店でタイヤを交換してください。

タイヤ内部のパッチを専門的に修理しても、その性能は新品タイヤには及ばず、耐力性にも影響を及ぼします。低速で走行してください。

そのため、損傷したタイヤは早めに交換することを強くお勧めします。

⚠ 注意：タイヤを修理する場合は、走行前にホイールバランスを確認してください。

第四章 トラブルシューティング

タイヤ交換

オリジナルタイヤは最適な性能を発揮するように設計されており、最高の操作性、ブレーキ性能、耐久性、快適なドライビングを提供します。

以下のスペックのタイヤをお選びください：

フロントタイヤ : 100/80-16

リアタイヤ : 110/80-14



警 告

異なる仕様のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響を与えます。

コントロールが効かなくなる場合もあり、安全が損なわれます。

タイヤの交換は、取扱説明書で推奨されているタイヤの仕様とサイズに従って行ってください。

第四章 トラブルシューティング

-03-

バッテリーについて

バッテリー

電動バイクの動力源はすべてバッテリーです。

不適切なバッテリーの使用やメンテナンスは、バッテリー容量を低下させ、最終的に車両の耐久走行距離に影響を与えます。

必要に応じ、メンテナンスや整備を行うことで、バッテリーの作動状態を改善することができます。

詳細については取扱説明書をご覧ください。

第四章 トラブルシューティング

航続距離

航続距離は、バッテリー容量、運転習慣、使用環境、車両のメンテナンス状態と密接な関係があります。バッテリーの使用時間と車両の走行距離が長くなるにつれて、徐々にバッテリー容量が低下します。車両の航続距離も短くなりますが、これは正常なことです。運転習慣や使用環境の違いは、航続距離に影響します。常時高速走行、頻繁なブレーキングと発進、重い荷物を積んでの走行、急な坂道の登り、車両に電力を消費する装置を追加、向かい風での走行、その他負荷がかかる場合は航続距離が短くなります。バッテリー容量は周囲温度の影響を受けます。周囲温度が -20°C ～ 0°C の場合、バッテリーの有効容量は20%～30%低下します。

従って、冬場や寒冷地では1回充電での航続距離が短くなるのが普通です。バッテリー容量が著しく低下した場合は、VMOTO製品取扱いサービス工場にて点検を行い、状態をご確認ください。

⚠ 注意：純正品以外のバッテリーを使用した場合は、走行できなくなります。

第五章 関連情報

-01-

車両の清掃

清掃やその他のメンテナンス作業は、自動車の寿命を延ばすために非常に重要です。一般的に無視されがちな問題も、メンテナンスによって見つけることができます。

また、海水や舗装の凍結防止剤には塩分が含まれており、車両の錆を促進させます。海岸や凍結防止剤が撒かれた道路を走った後は、洗車をしてください。

車両の洗車

モーター周り、ブレーキ、その他の高温部分は、冷却前に洗うことはできません。

- ① まずボディ全体を水で流して汚れを落とします。車体の内部に水をかけないで下さい。
- ② 汚れがひどい場合は、薄めた中性洗剤を使用するか、スポンジや柔らかい布で拭いてください
- ③ 汚れを洗い流し、柔らかい布で拭いてください。
- ④ 車体が乾いたら、潤滑油を可動部に塗布してください。
- ⑤ 車体の腐食を防ぐため、ワックスをかけてもよいです。

第五章 関連情報

洗車に関する注意事項

洗車にあたっては、以下の事項を遵守すること：

- ❶ 高圧洗車機は使用しないでください。
 - (1) 洗車時に車体へ高い水圧がかかると、電装品の可動部の走行不良や故障の原因となります。
 - (2) ヘッドライトガラスやその他のプラスチック部品を洗浄する際は、傷がつかないように、水で汚れを洗い流してください。
- ❷ ブレーキキャリパ、モーター、フロントアクスル、リアアクスルに直接水をかけないでください。
また、水流がハーネスアダプター、ヒューズ、その他の可動部品に影響を与えないようにしてください（特に充電ソケットに水が入ることは厳禁です）。
- ⚠ 注記：高圧の水流（またはガス流）は、電動モーターサイクルの一部の部品を損傷させます。
- ❸ シートの下部から高圧の水をかけないでください。
 - (1) 内部への水の侵入を招き、書類や電子機器が湿気の影響を受ける可能性があります。

第五章 関連情報

④ ウェットブレーキは適時対応すること。

水の影響でブレーキの効が悪くなることがあります。

洗車後は十分に乾燥させ、注意してブレーキをかけてください。

⑤ ワックス、ケミカル、オイルグリスを使用する場合

(1) オイル、グリス、ワックス、薬品がブレーキやタイヤに付着しないようにしてください。

ブレーキの故障や事故につながる恐れがあります。

(2) ワックスやケミカルを使用した場合、車体の目立たない部分に曇りや傷、色ムラ等がないか確認してください。素材の種類によっては、膜厚が薄かったり、色ムラがある場合があります。

(3) 艶消し塗装の表面にワックスやケミカルを塗布した場合、艶消し効果がなくなったり、色むらが発生する場合があります。ご使用はお控えください。

⑥ ヘッドライトが曇った場合

ヘッドライトを点灯すると、曇りがゆっくりと消えていきます。

第五章 関連情報

アルミパーツ

アルミ部品は塩分や泥土により腐食することがあります。

アルミ部品を傷めないよう、以下の点に注意してご使用ください。

- ❶ 硬いブラシやスチールウールは使用しないでください。
- ❷ アルミホイールに傷をつけないでください。
- ❸ 路肩に乗り上げないでください。リムの変形につながります。

第五章 関連情報

-02-

車両保管

屋外で停車しているときは、カバーを掛けてください。モーター周りが冷えてからカバーを掛けてください。また、長期間使用しない場合は、次の事項を守ってください。

- ① バッテリーの経年劣化を防ぐため、涼しい場所に停車させてください。(推奨温度：0～25℃)
- ② 錆を防ぐため、保管前に防錆処理を行ってください。
- ③ 雨が止んだらカバーを外してボディを乾かしてください。

長期間保管する場合は、バッテリーを満充電にして、バイクから物理的に取外す必要があります。

[バッテリー接続ポートからコネクタを抜きます]

長期保管後に再使用する場合は、まずバッテリーを満充電にして、保管期間に応じて各部の点検・整備を行ってください。

第五章 関連情報

-03-

環境保護について

私たちが生活する自然環境（大気・水・土壌）を守るため、以下の事項を遵守してください。

- ① 洗車はオイルを含む排水が直接土壌に流出しないよう、専用の洗車場で行ってください。
- ② スペアパーツはVMOTO製品取扱店でお買い求めください。
ブレーキシュー、電気メッキ部品など、アスベスト含有材料やその他の有害物質を含むスペアパーツは使用しないでください。
- ③ 以下の廃棄物を勝手にゴミとして捨てないでください。VMOTO製品取扱店にお渡しください。
VMOTO製品取扱店が回収し、廃棄物処理資格のある廃棄物処理センターへお送りいたします。

第五章 関連情報

廃棄物のカテゴリー:

①油性の布、手袋、

古くなった廃部品（タイヤ、ステアワイヤー、フレキシブルアクスル、ベアリング、ギアなど）

②車両で使用されていたオイル、ギアオイル、ダンパーオイル、ブレーキフルード、防錆剤、

キャブレター洗浄剤、スプレー塗料、電解液などのタンクは空にする

③廃油、ギアオイル、ブレーキ液、その他の廃液

④古い廃バッテリー

⑤プリント回路基板を含む、古い交換済部品と廃棄部品

第六章 技術的パラメーター

-01-

技術的パラメーター

サイズと仕様

全長L*全幅W*全高H (mm)	2125 x 760 x 1430
ホイールベース(mm)	1366
最低地上高 (mm)	154
車両重量 (バッテリー除く) (kg)	143
タイヤ仕様 (前輪)	100/80-16
タイヤ仕様 (後輪)	110/80-14
最高速度 (km/h)	105
航続距離 (km)	100 (Euro5 コンディション)
登坂勾配 (%)	21
エネルギー消費量(Wh/km)	61

第六章 技術的パラメーター

モーター

モーター形式	ハブモーター - 静音軸
定格出力 (W)	5000
最高出力 (W)	7000

バッテリー

外形寸法(mm)	250 x 170 x 310
重量(kg)	< 20.0
バッテリー容量	60V 45Ah

充電器

入力電圧 (V)	AC100~240
出力電流 (A)	4
出力電力 (定格) (W)	285
充電時間 (シングルユニット) (H)	11.5

メンテナンス スケジュール

		1,000km または 1ヶ月 (いずれか早い方)	2,500km または 6ヶ月 (いずれか早い方)	5,000km または 1年 (いずれか早い方)	7,500km または 1年半 (いずれか早い方)	10,000km または 2年 (いずれか早い方)
コンポーネント	作業内容					
全般	I	✓	✓	✓	✓	✓
ステアリング、操作系	I/E	✓		✓		✓
ステアリングベアリング	I/C/L	✓		✓		✓
電気系統	I	✓	✓	✓	✓	✓
ライト、スイッチ	I/E	✓	✓	✓	✓	✓
サーキットブレーカー	I	✓	✓	✓	✓	✓
ホイールベアリング	I/E			✓		✓
ホイール、リム	I	✓	✓	✓	✓	✓
タイヤ	I*			✓		✓
ブレーキ全般	I/C/E	✓		✓		✓
ブレーキオイル	E					✓
フロントフォーク	I	✓		✓		✓
リヤサスペンション	I	✓		✓		✓
スロットル	I/L			✓		✓
メイン/サイドスタンド	I/C/E	✓		✓		✓
チェーン	I/C/L	✓	✓	✓	✓	✓

I… Control (点検) E… 交換 C… 清掃 L… 給油 *Check: 溝深さ / 空気圧

【Controlについて】

機能が正しいか確認してください。清掃や給油の指示があれば追加で行わなければなりません。エラーや欠陥が検出された場合は、修復する必要があります。

※運行前点検は上記の表に関わらず行う必要があります。

メンテナンス レコード

日付	年 月 日	走行距離	
ノート			
販売店			

1ヶ月点検整備記録簿(電動車)

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 参照事項

- ※1 各変速モードで作動させ、うなり音等の異音の有無を確認お願いいたします。
- ※2 ステム緩み止めナットの状態確認要。
- ※3 タイヤ溝深さを確認。
- ※4 タイヤ規定空気圧→(前)175kPa / (後)225kPa

電動機点検

- 本体 _____
 電動機の作動状態・異音の有無※1 低速・加速の状態
- 動力伝達装置 _____
 チェーン・ベルトの緩み
 スプロケット・プリーの取付状態磨耗

ステアリング装置点検

- ハンドル _____
 操作具合
- フロントフォーク _____
 損傷
 ステアリングステムの取付状態※2
 ステアリングステムの軸受け部のがた

電気・保安装置点検

- 走行用バッテリー _____
 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無
- スイッチ類 _____
 灯火装置・方向指示器の作用
 ホーン・ハンドルロック装置の作用
 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品/記事等

ブレーキ点検

- ブレーキペダル及びブレーキレバー _____
 遊び ブレーキのきき具合
- ロッド及びケーブル類 _____
 緩み・がた・損傷
- ホース及びパイプ _____
 漏れ・損傷・取付状態
- リザーバタンク _____
 ブレーキ液の量

足回り点検

- ホイール _____
 タイヤの空気圧※3 タイヤの亀裂・損傷の有無
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗※4
 ホイールのボルト・ナットの緩み
- ショックアブソーバー _____
 損傷・オイル漏れの有無

その他

- 外観樹脂パーツの損傷の有無

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年 月 日
整備完了日
年 月 日
タイヤの溝の深さ
F mm R mm
ブレーキパッド残量
F mm R mm
点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿 (電動車)

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6ヵ月点検整備…… +
 ● 12ヵ月点検整備…… +
 ※納車時点検は6ヵ月点検に準ずる

電動機点検

- 本体 _____
 電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態
- 動力伝達装置 _____
 チェーン・ベルトの緩み
 スプロケット・プーリーの取付状態磨耗

ステアリング装置点検

- ハンドル _____
 操作具合
- フロントフォーク _____
 損傷 ステアリングシステムの取付状態
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

足回り点検

- ホイール _____
 タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
 ホイールのボルト・ナットの緩み
 フロントホイールベアリングのがた
 リヤホイールベアリングのがた
- サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____
 連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

ブレーキ点検

- ブレーキペダル及びブレーキレバー _____
 遊び ブレーキのきき具合
- ロッド及びケーブル類 _____
 緩み・がた・損傷
- ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____
 漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量
- マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____
 機能・磨耗・損傷
- ブレーキドラム及びブレーキシュー _____
 ドラムとライニングのすき間
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

- バッテリー _____
 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無
- 電気配線 _____
 接続部の緩み損傷
- スイッチ類 _____
 灯火装置・方向指示器の作用
 ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

その他

- フレームの緩み・損傷 シャシ各部の給油脂状態

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年 月 日
整備完了日
年 月 日
タイヤの溝の深さ
F mm R mm
ブレーキパッド残量
F mm R mm
点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿 (電動車)

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6ヵ月点検整備…… +
 ● 12ヵ月点検整備…… +
 ※納車時点検は6ヵ月点検に準ずる

電動機点検

- 本体 _____
 電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態
- 動力伝達装置 _____
 チェーン・ベルトの緩み
 スプロケット・プーリーの取付状態磨耗

ステアリング装置点検

- ハンドル _____
 操作具合
- フロントフォーク _____
 損傷 ステアリングシステムの取付状態
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

足回り点検

- ホイール _____
 タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
 ホイールのボルト・ナットの緩み
 フロントホイールベアリングのがた
 リヤホイールベアリングのがた
- サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____
 連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

ブレーキ点検

- ブレーキペダル及びブレーキレバー _____
 遊び ブレーキのきき具合
- ロッド及びケーブル類 _____
 緩み・がた・損傷
- ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____
 漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量
- マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____
 機能・磨耗・損傷
- ブレーキドラム及びブレーキシュー _____
 ドラムとライニングのすき間
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

- バッテリー _____
 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無
- 電気配線 _____
 接続部の緩み損傷
- スイッチ類 _____
 灯火装置・方向指示器の作用
 ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

その他

- フレームの緩み・損傷 シャシ各部の給油脂状態

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年 月 日
整備完了日
年 月 日
タイヤの溝の深さ
F mm R mm
ブレーキパッド残量
F mm R mm
点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿 (電動車)

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6ヵ月点検整備…… +
 ● 12ヵ月点検整備…… +
 ※納車時点検は6ヵ月点検に準ずる

電動機点検

- 本体 _____
 電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態
- 動力伝達装置 _____
 チェーン・ベルトの緩み
 スプロケット・プーリーの取付状態磨耗

ステアリング装置点検

- ハンドル _____
 操作具合
- フロントフォーク _____
 損傷 ステアリングシステムの取付状態
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

足回り点検

- ホイール _____
 タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
 ホイールのボルト・ナットの緩み
 フロントホイールベアリングのがた
 リヤホイールベアリングのがた
- サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____
 連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

ブレーキ点検

- ブレーキペダル及びブレーキレバー _____
 遊び ブレーキのきき具合
- ロッド及びケーブル類 _____
 緩み・がた・損傷
- ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____
 漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量
- マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____
 機能・磨耗・損傷
- ブレーキドラム及びブレーキシュー _____
 ドラムとライニングのすき間
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

- バッテリー _____
 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無
- 電気配線 _____
 接続部の緩み損傷
- スイッチ類 _____
 灯火装置・方向指示器の作用
 ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

その他

- フレームの緩み・損傷 シャシ各部の給油脂状態

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年 月 日
整備完了日
年 月 日
タイヤの溝の深さ
F mm R mm
ブレーキパッド残量
F mm R mm
点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

定期点検整備記録簿 (電動車)

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6ヵ月点検整備…… +
 ● 12ヵ月点検整備…… +
 ※納車時点検は6ヵ月点検に準ずる

電動機点検

- 本体 _____
 電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態
- 動力伝達装置 _____
 チェーン・ベルトの緩み
 スプロケット・プーリーの取付状態磨耗

ステアリング装置点検

- ハンドル _____
 操作具合
- フロントフォーク _____
 損傷 ステアリングシステムの取付状態
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

足回り点検

- ホイール _____
 タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
 ホイールのボルト・ナットの緩み
 フロントホイールベアリングのがた
 リヤホイールベアリングのがた
- サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____
 連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

ブレーキ点検

- ブレーキペダル及びブレーキレバー _____
 遊び ブレーキのきき具合
- ロッド及びケーブル類 _____
 緩み・がた・損傷
- ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____
 漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量
- マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____
 機能・磨耗・損傷
- ブレーキドラム及びブレーキシュー _____
 ドラムとライニングのすき間
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

- バッテリー _____
 本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無
- 電気配線 _____
 接続部の緩み損傷
- スイッチ類 _____
 灯火装置・方向指示器の作用
 ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

その他

- フレームの緩み・損傷 シャシ各部の給油脂状態

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年 月 日
整備完了日
年 月 日
タイヤの溝の深さ
F mm R mm
ブレーキパッド残量
F mm R mm
点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
〒

保証書

製品保証について

保証書に記載の対象車両の保証部位に、材料上もしくは製造上の不具合等による故障が発生した場合、無償で修復させていただきます。なお、弊社の指示、承諾を得ずに改造等を行った車両については全て保証対象外とさせていただきます。

※一般的な使用用途外（レース場での使用等）についても保証対象外とさせていただきます。

保証対象部品… フレーム・フロントフォーク・スイングアーム・ホイール・リヤサスペンション・ブレーキ・ステアリング・電動機・コントローラー・走行用バッテリー・その他メーカーが定めた主要部品。

保証適用外の範囲… 外装部品・シート・消耗部品（ブレーキパッド・ブレーキシュー・タイヤ・ゴム類・油脂類等・ブレーキディスク・電球類・ヒューズ等）・その他メーカーが定めた部品・主観的な音や振動に関する部品

車両の譲渡について詳しくは、WEB ページをご覧ください。 <https://www.xeam.jp/>

1カ月点検について

新車登録または届け出をされてから1カ月を目安に行う点検です。この時期の点検は車両寿命に影響を与えることが多いことから、新車登録または届け出をされてから約1カ月（または1000km時）の点検を弊社提携店舗にて実施いたします。直営店（WEB販売含む）にてご購入いただいた場合は無料にてお受付いたします。有効期間を過ぎますと、有料となります。（有効期間：新規登録もしくは届け出をしてから約1カ月もしくは有効期間内に走行距離が1000kmを超える場合は、1000km走行時となります。）

● 1カ月の点検内容

- ・電動機の低速及び加速の状態の点検
- ・リム及びホイールディスクの損傷の点検
- ・ブレーキの利き具合の点検
- ・ブレーキロッド及びケーブル類の緩み、がた、損傷等の点検
- ・タイヤの空気圧亀裂、損傷、異状摩耗、溝の深さ
- ・ブレーキホース及びパイプの液漏れ、損傷、取り付け状況の点検

定期点検について

2007年4月1日より『道路運送車両法』の改正等により、2007年4月1日以降の新車登録車より、以下の内容での定期点検内容に変更となりました。

- ・6カ月点検の廃止
- ・走行距離加味点検とシビアコンディション点検の設定

点検の種類について

● 日常点検

法律に準じてユーザー様自身で日々の車両の状況、状態に応じてユーザー様自らが適宜行う点検です。走行前、充電前、洗車前等に行ってください。

- ・ブレーキ（前後）レバー（ペダル）の遊び、きき具合
- ・ブレーキ液の量（前後）
- ・灯火装置および方向指示器
- ・低速・加速の状態
- ・タイヤの空気圧亀裂、損傷、異状摩耗、溝の深さ
- ・運行において異状が認められた箇所

● シビアコンディション点検

通常使用より過酷な状況で車両を使用した場合、部品の劣化や破損等が通常より早く進行してしまうケースがございます。それを早期に発見するために整備士が6カ月ごとに行う点検のことをさします。シビアコンディションの目安、状況については以下の通りです。

- ・坂道や山道の走行が全走行の30%以上を占めている。またそれに伴うブレーキの使用が多い。
- ・走行距離が半年で3000km以上である。
- ・未舗装路や凸凹道の走行が全走行の30%以上を占めている。

※整備点検等でご不明な点は販売店、取次店にご相談ください。

保証有効期間について

店舗でご購入 : 登録日から2年 or 10,000km 走行時

弊社HPでご購入 : 出荷日から2年 or 10,000km 走行時

※年数、kmは早く到達した方を適用

ご購入日 年 月 日

氏名 様 TEL - -

〒

住所

登録番号

車名 車台番号

お問い合わせ

バイクについてのお問い合わせ・ご相談は取扱店にお気軽にご連絡ください。

取扱店

TEL

製品についてお問い合わせ

**XEAM事業部
事務局**

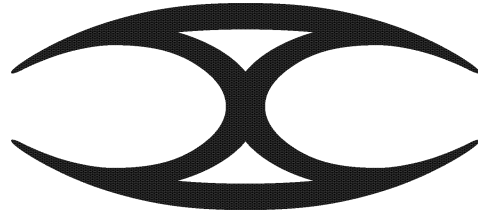
TEL 092-292-5374 **MAIL** info_xeam@mssjapan.jp

受付時間 9:00-12:00 / 13:00-18:00 (月~金)

〒810-0801 福岡県福岡市博多区中洲5丁目6-24 第6ガーデンビル6F

輸入元：株式会社MSソリューションズ

XEAM 公式ホームページ：<https://www.xeam.jp/> | MSソリューションズ公式ホームページ：<https://www.mssjapan.jp/>



X E Λ M

ELECTRIC MOTORCYCLE